

経団連自然保護協議会 の活動について

2025年6月9日



経団連自然保護協議会
Keidanren Nature Conservation Council

経団連自然保護協議会とは①

- 設立： リオの地球サミット（環境と開発に関する国連会議）が開催された1992年に設立。

※経団連は1991年に「**経団連地球環境憲章**」を策定。憲章の考えを自然保護分野で実践する組織として、**経団連自然保護協議会**と**経団連自然保護基金**を設立。

- 目的： 途上国及び国内の自然保護活動を支援するとともに、企業の自然保護活動を促進する。
(経団連自然保護協議会規約第2条)

経団連
1,584社・185団体
(2025年4月1日時点)

経団連自然保護協議会
会員企業141社 (2025年4月末時点)
内訳 常任委員55社 通常会員86社

「経団連自然保護協議会」は経団連の姉妹団体。

〈経団連自然保護協議会の主要活動〉

1	経団連自然保護基金による貢献	2	ネイチャーポジティブ経営の普及
3	円滑なネイチャーポジティブ経営推進 のための内外の環境整備	4	日本の取組発信・ 海外最新動向の把握

経団連自然保護協議会とは②

経団連自然保護協議会は生物多様性分野で
多様なステークホルダーをつなぐ**経済界最大のプラットフォーム**

政府

- ・環境省の各種審議会等に経済界代表として参画
- ・国内の産学官民が参加・連携するプラットフォーム「2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)」への参画
- ・発起人として、30by30アライアンス設立・推進を支援
- ・国土交通省「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」への参画

アカデミア

シンポジウム、勉強会等への招聘等を通じた内外有識者との幅広いネットワーク

【最近の例】

伊坪 徳宏 早稲田大学理工学術院
入山 章栄 早稲田大学大学院 経営管理研究科教授
栗山 浩一 京都大学農学研究科教授
香坂玲 東京大学農学生命科学研究教授
古田尚也 大正大学教授
馬奈木 俊介 九州大学大学院工学研究院教授
橋本 禅 東京大学大学院農学生命科学研究科教授



経団連自然保護協議会
Keidanren Nature Conservation Council

〈会員への啓発活動〉

経団連生物多様性宣言の
普及、環境リーダー育成講座
の実施 等

* 経団連自然保護協議会は、1992年、「経団連地球環境憲章」の考えを自然保護分野で実践する組織として、経団連自然保護基金とともに設立されました。

国際ネットワーク

- ・IUCN、BirdLife等、著名な国際NGOとの長期に亘る信頼関係
- ・WBCSD（持続可能な開発のための経済人会議）、WEF（世界経済フォーラム）等、国際的なビジネス団体が実施するプロジェクトへの参画
- ・国連機関（UNDP等）との共同プロジェクト

生物多様性条約(CBD) ・自然関連財務情報 開示タスクフォース(TNFD)

- ・CBD事務局長との懇談会
- ・CBD COP(締約国会議)への累次のミッション派遣
- ・TNFD日本協議会招集者

NGO

- ・経団連自然保護基金を通じた30年に亘るプロジェクト支援を背景としたNGOとのネットワーク
- ・NGOによる成果報告会、企業とNGO等との交流会

経団連自然保護基金を通じたプロジェクト支援

- 毎年度、法人・個人からの寄付を募り、国内外のN G Oが行う生物多様性・自然保護プロジェクトに対し、資金支援。32年間の累計で、約1,780件、約52億円を支援。

<2024年度> 合計46件 1億6,991万円 (海外：29件、1億 3,247万円 国内：17件、3,744万円)
(海外：1件、5,000万円をCOMDEKSに拠出)

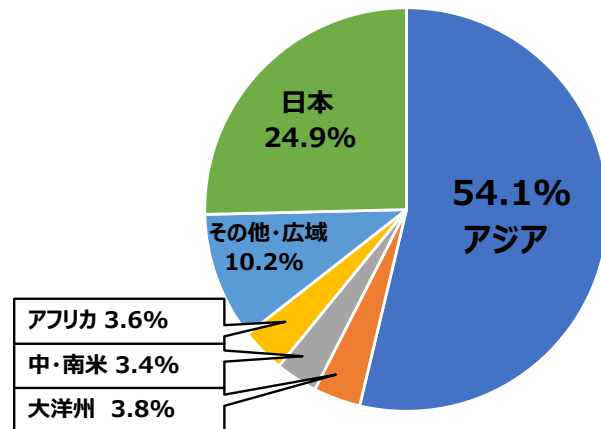
<2025年度> 合計45件 1億6,983万円 (海外：29件、1億3,641万円 国内：16件、3,342万円)

- 2023年度助成から、昆明・モンリオール生物多様性枠組（GBF）の目標達成に貢献するプロジェクトに助成することとしている。

【分野別・地域別 32年間累計支援額（2024年度末）】

分野別	金額	比率
自然資源管理	1,784	33.9%
環境教育	1,081	20.5%
植林	753	14.3%
希少動植物	728	13.9%
調査	460	8.7%
会議支援	110	2.1%
その他	345	6.6%
合計	5,261	100%

(百万円)



企業とN G O等との交流促進：国内プロジェクト視察

- 2024年9月3日-4日にて、シナイモツゴ郷の会（高橋理事長）による「アメリカザリガニ防除による里山水辺の自然再生」の視察を実施。
- 現場では、絶滅危惧種であるシナイモツゴやゼニタナゴを保全するためのシナイモツゴ郷の会作成、ザリガニ捕獲装置での捕獲や、地域の様々なステークホルダーを巻き込んだ活動、旧品井沼の歴史等を学んだ。
- 意見交換会では、シナイモツゴ郷の会から里山ため池の重要性についての説明、また環境省東北地方環境事務所、大崎市よりそれぞれの取組について紹介を受け、自治体やNGO団体、企業との今後の連携の可能性について等、視察参加者との間で意見交換を行った。



左上：ため池でのザリガニ捕獲

中央：令和5年後期自然共生サイト認定先である

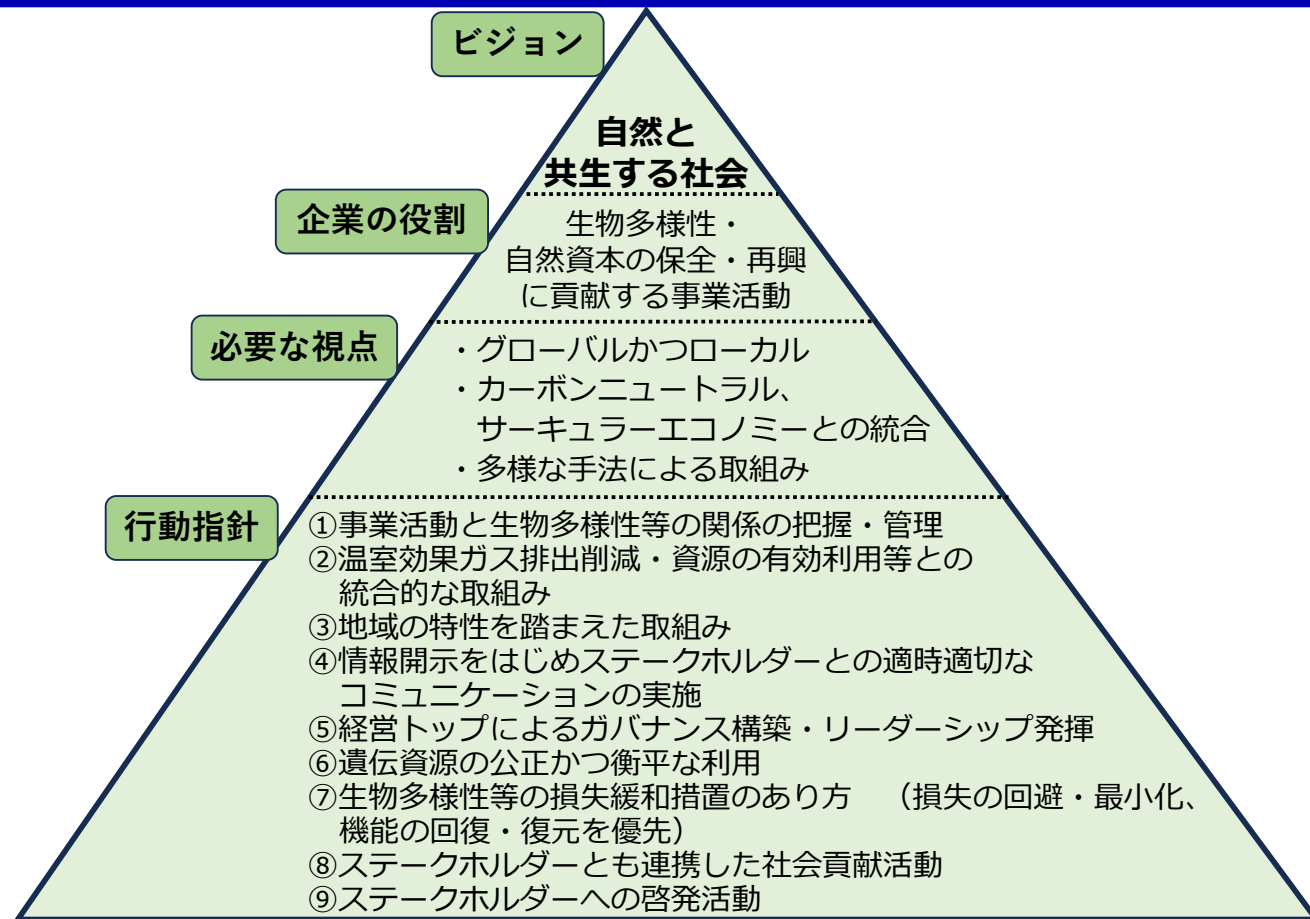
「旧品井沼周辺ため池群」の1つ、「桂沢ため池」

右上：シナイモツゴ郷の会、環境省、大崎市との意見交換会

右：世界農業遺産である大崎耕土の「居久根（いぐね）」



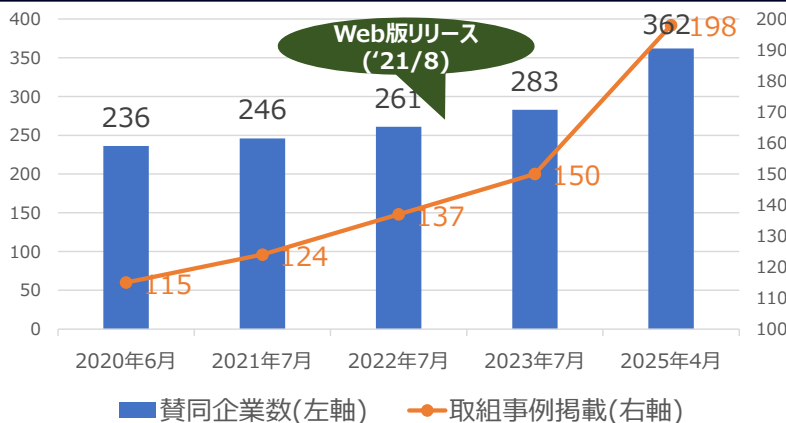
経団連生物多様性宣言・行動指針（2023年12月改定）の全体像



経団連生物多様性宣言イニシアチブ

- 「愛知目標」の下で「生物多様性の主流化」に主体的に取り組んできた日本経済界の多様な先進的取組みと、「ポスト愛知時代」を見すえた「将来の取組み方針」を国内外に発信すべく、改めて「経団連生物多様性宣言等-改定版」(2018)への賛同を呼びかけた。
- 2020年6月、約240企業・団体が賛同、内118企業・団体が「将来の取組み方針」「取組み事例等」を提供。これらを取りまとめ「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」を作成、公表。同年11月には英語版を公表し、2021年8月には、専用WEBサイトも開設。
- 2023年12月、新たな国際目標（GBF）や国家戦略等を踏まえて「経団連生物多様性宣言・行動指針」を改定。改定後も賛同の呼びかけを継続し、**2025年4月末時点で、362企業・団体が賛同、198件の取組事例を掲載。** <http://www.keidanren-biodiversity.jp/>

経団連生物多様性宣言への賛同企業・団体数推移



イニシアチブに参加されている企業には、WEBサイトや統合報告書、サステナビリティレポート等で活用いただけるロゴマークをご提供



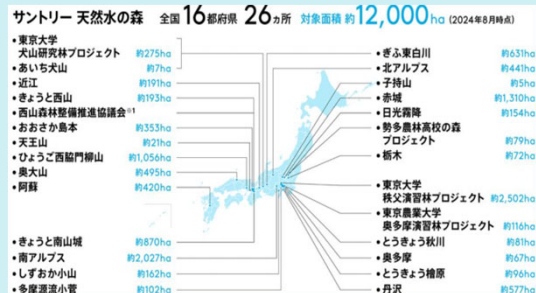
経団連自然保護協議会会員企業の取組み事例①（ターゲット11水辺関連）

- GBFの各ターゲット実現に資する、経団連自然保護協議会会員企業の取組み事例集をウェブサイトに掲載。ターゲット11における水辺関連の事例（3件）の一つに「天然水の森」があげられる。

ターゲット11：自然の恵みの回復・維持及び増大

「サントリー 天然水の森」活動（サントリーホールディングス）

サントリーグループでは、水源涵養機能の向上と生物多様性の再生を目的とした活動である「天然水の森」に2003年から取り組んでいる。現在では、16都府県26ヵ所、12,000haを超える規模まで拡大し、日本国内の工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を涵養している。この活動は、さまざまな分野の第一線で活躍する研究者と連携し、科学的な根拠に基づいて100年先を見据えた継続的な活動を展開している。



経団連自然保護協議会会員企業の取組み事例②（ターゲット11水辺関連）

- ターゲット11における水辺関連の事例（3件）の一つに「イオンカルチャー」があげられる。

ターゲット11：自然の恵みの回復・維持及び増大

ブルーカーボン生態系を構築、「イオンカルチャー」が海の脱炭素に貢献（東洋製罐グループホールディングス）

当社グループは、海藻などが二酸化炭素を吸収するブルーカーボンの普及に向けて、海藻の成長を促す成分を海洋に浸透させる「イオンカルチャー（藻類増殖材）」を全国の漁港などへ展開している。加速する地球温暖化への対策として、従来品と比較して3倍早く海に溶け出る新製品を開発した。新しいイオンカルチャーの普及に努めることで、より海の脱炭素に寄与していく。



経団連自然保護協議会会員企業の取組み事例③（ターゲット11水辺関連）

- ターゲット11における水辺関連の事例（3件）の一つに「海の森づくり」があげられる。

ターゲット11：自然の恵みの回復・維持及び増大

鉄鋼スラグを活用した藻場回復 ～海の森づくり～ 日本国内56カ所で実施（日本製鉄）

海藻類が失われ海底が不毛となる磯焼け現象の一因とされる鉄分供給不足解消のため、当社は森林土壌中で「鉄イオン」と「腐植酸」が結合して生まれる腐植酸鉄を、鉄鋼スラグと廃木材由来の腐植物質を利用して人工的に生成し全国の海域に供給する事業に取り組んでおり、全国漁業協同組合連合会より安全性に関する認証も受けている。なお、当社は本技術を通じ、藻場によるCO2吸収（ブルーカーボン）事業も推進している。



FOR ALL THE LIFE ON EARTH



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

